

トウガラシ



学名：*Capsicum annuum* Linné

科：ナス科 属：トウガラシ属

形態：熱帯アメリカ原産で、世界中で栽培されている一年草。葉は長い柄があり、卵状披針形。夏に白い花を一個咲かせる。熟した果実は普通赤色で、黄色や黒紫色のものも存在する。

生薬：果実を乾燥させたものが蕃椒（バンショウ）として用いられる。

成分：辛味成分として capsaicin, dihydrocapsaicin.

赤いカロテノイド色素として capsanthin.

用途：主に香辛料として用いられる。辛味性健胃薬として内服、皮膚引赤薬（血流をよくする）として外服。

「トウガラシ」は「唐」から伝わった「辛子」の意味であるが、「唐」はあくまで「国」を表しており中国経由というわけではない。学名の *Capsicum* はラテン語でカプセル（容器）の意味で、房の中が空洞なことが由来である。

辛味があり香辛料として使われる品種と、辛味がないかほとんどない代わりに糖度が高く、主に野菜として食される甘唐辛子がある。

トウガラシには防虫効果があることは昔から知られており、書物や人形の保存にも使われてきた。

参考文献

薬用植物学 改定第7版（南江堂） 最新薬用植物学（廣川書店）

東京生薬協会 http://www.tokyo-shoyaku.jp/f_wakan/wakan2.php?id=171

グリコ <http://www.glico.co.jp/info/chili/index.html>

2017.6.30 4YM KH